

# 「数学的な見方・考え方」を 活用することができる児童の育成

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

氏名 三輪 真弘

算数の学習では、児童が「数学的な見方・考え方」を働かせることができるように指導していくことが重視されている。そこで、本研究では、日常の算数の授業を通じて、児童自身が「数学的な見方・考え方」を意識的に活用することができるような指導の手立てを検討・実践し、その検証を行うことを目的にすることにした。

実践では、当該授業で児童に働かせてほしい数学的な見方・考え方を明確にし、「既習からの見方・考え方の整理」「既習と未習の対比」「ふり返りによる見方・考え方の再意識化」「見方・考え方のキーワード化・更新」という4つの手立てを設けて授業を行い、ふり返りで数学的な見方・考え方に関わる記述がどの程度あるかを質的・量的に検証した。

結果として、授業で扱った「数学的な見方・考え方」を頼りにふり返りを記述させることで、ある程度の児童には見方・考え方を再意識化させることができた。また、単元を通してふり返りを行うことで、その質が上がったと捉えられる児童もいた。これらのことから、本研究の指導の手立ては一定程度効果があったと考えられる。